

人間社会システム科学研究科 人間社会学専攻 研究指導の流れ

■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要な授業科目について、履修モデルとシラバスを参考にして個々の学生の指導を行う。
3. 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名を決定する。

■研究指導教員の決定プロセス

大学院博士前期課程入学者

1. 学生は、入学後に、指導を希望する教員を選択し、所定の指導教員届を記入し教育推進課教務グループまで提出する。
2. 志望調査の結果をもとに、研究科企画運営会議において研究指導教員を決定する。
3. 通常、6月までに指導教員を決定し、学生に通知する。

大学院博士後期課程入学者

1. 学生は、入学後に、指導を希望する教員を選択し、所定の指導教員届を記入し教育推進課教務グループまで提出する。
2. 志望調査の結果をもとに、研究科企画運営会議において研究指導教員を決定する。
3. 通常、6月までに指導教員を決定し、学生に通知する。

■副指導教員制度

1. 副指導教員は、博士後期課程におく。
2. 副指導教員は、研究指導教員による学生の研究指導のサポートを行う。
3. 副指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導についての学生からの相談に応じ、研究指導教員との調整を行う。
4. 副指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名又は複数名の教員を決定する。

■研究指導計画

本研究科における研究指導計画は、以下の①～⑤のとおりである。指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

●博士前期課程

【1年次】

1. 研究計画の立案
 - (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、研究目的の設定を行い、指

導教員とともに研究計画を立案する。

- (2) 学生は、所定の研究指導計画書に研究計画を記載して指定した期日までに指導教員に提出する。
- (3) 指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法、文献検索方法、文献読解方法などを指導する。
- (4) 指導教員は、学生が記入し提出した研究指導計画書の研究計画に基づき、課程修了までの1年ごとの研究指導計画及び副指導教員名を記載し、学生と副指導教員に明示する。
- (5) 指導教員は、研究指導計画書を博士前期課程分野会議に報告し、承認を得る。
- (6) 指導教員は、承認を得た研究指導計画書を指定した期日までに教育推進課教務グループを通じて研究科長に提出し、企画運営会議の承認を得る。

2. 研究の遂行

(春入学：1年次6月～2年次11月、秋入学：1年次12月～2年次6月)

- (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、予備実験、調査、関連文献の収集などを行う。2年次では、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集、解析、考察等を行い、研究結果をまとめる。
- (2) 指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の方法、データ解析、関連文献の探し方などの指導を行い、研究結果をまとめさせる。
- (3) 指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副指導教員に明示する。
- (4) 学生は、指導教員と十分に相談の上、指定した期日までに修士論文題目届を指導教員に提出する。指導教員は分野主任に報告する。
- (5) 指導教員、副指導教員及び分野主任は、指定した期日までに博士前期課程分野会議で修士論文題目届を共有することによって研究の進捗状況を確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。

3. 研究経過の中間報告

適宜実施する。

【2年次】

4. 修士論文の作成

- (1) 学生は、研究成果をもとに修士論文の作成を開始し、指導教員のもとで修士論文を完成させる
- (2) 指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理、引用等、および論文のまとめ方を指導する。

5. 修士論文の提出

(3月修了：1月20日、9月修了：7月20日。該当日が休日の場合は翌営業日)

- (1) 学生は、修士論文を指定した期日までに提出する。
- (2) 指導教員は、学位論文審査委員会終了後、研究指導報告書を博士前期課程分野会議に報告し、指定した期日までに教育推進課教務グループを通じて研究科長に提出し、企画運営会議の承認を得る。

●博士後期課程

【1年次】

1. 研究計画の立案

- (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、研究目的の設定を行い、指導教員とともに研究計画を立案する。
- (2) 学生は、所定の研究指導計画書に研究計画を記載して指定した期日までに指導教員に提出する。
- (3) 指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法、文献検索方法、および文献読解方法などを指導する。
- (4) 指導教員は、学生が提出した研究指導計画書に研究指導計画及び副指導教員名を記載し、学生と副指導教員に明示する。
- (5) 指導教員は、研究指導計画書を博士後期課程分野会議に報告し、承認を得る。
- (6) 指導教員は、承認を得た研究指導計画書を指定した期日までに教育推進課教務グループを通じて研究科長に提出し、企画運営会議の承認を得る。

2. 研究の遂行

(春入学：1年次6月～3年次7月、秋入学：1年次11月～3年次1月)

- (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、予備実験、調査、関連文献の収集などを行う。2～3年次では、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集、解析、考察等を行い、研究結果をまとめる。
- (2) 指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の方法、データ解析、博士論文の構成などについて指導を行い、研究結果をまとめさせる。
- (3) 指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副指導教員に明示する。
- (4) 学生は、指導教員と十分に相談の上、指定した期日までに研究報告書を指導教員に提出する。指導教員は分野主任に報告する。
- (5) 指導教員、副指導教員及び分野主任は、指定した期日までに博士後期課程分野会議で研究報告書を共有することによって研究の進捗状況について報告し、承認を得て、研究の進捗状況に応じた指導を行う。
- (6) 指導教員は、承認を得た研究報告書を指定した期日までに現代システム科学研究科教務担当を通じて研究科長に提出し、企画運営会議の承認を得る。

3. 研究経過の中間報告

適宜実施する。

【2～3年次】

3. 博士論文の作成

- (1) 学生は、指導教員に承諾を得た上で、指定した期日までに研究報告書を教育推進課教務グループまで提出する。
- (2) 指導教員は、研究報告書を博士後期課程分野会議に報告し、承認を得る。
- (3) 学生は、研究成果をもとに博士論文の作成を開始し、指導教員のもとで博士論文

を完成させる。指導教員は、博士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

- (4) 学生は、指導教員の承諾を得て、指定した期日までに博士論文の予備審査申請を行う。
- (5) 指導教員は、予備審査結果をもとに適宜指導を行う。

4. 博士論文の提出（3年次以降）

（3月修了：2月10日、9月修了：7月10日。該当日が休日の場合は翌営業日）

- (1) 学生は、博士論文を指定した期日までに提出する。
- (2) 指導教員は、学位論文審査委員会終了後、研究指導報告書を博士後期課程分野会議に報告し、指定した期日までに教育推進課教務グループを通じて研究科長に提出し、企画運営会議の承認を得る。